

協会活動の活性化にむけて

山口県防犯設備士協会 専務理事
総合防犯設備士 第10-0309

坂根 満良



新年あけましておめでとうございます。

今回この様な機会を頂き、日防設様には心より御礼申し上げます。

当会は、平成8年、「安全で住みよい地域社会の実現」を目的に、山口県内に居住する防犯設備士をもって「山口県防犯設備士地域安全協議会」を結成しました。結成時12名であった県内の防犯設備士は、平成18年当時(社)日本防犯設備協会(以降「日防設」)に問合せをしたところ、約80名にまで増加しているとのことでありました。

こうした現状とは裏腹に、当会の活動は発足以降、様々な事情から低迷してきたのが実情でした。このような状況を打開すべく、防犯設備士の活躍の場を広げて会員相互の連携強化と活動の活性化を図るため、県警察本部、県防犯連合会指導のもと、発会時の目的であった「地域安全活動に協力すること」を、防犯設備士としての任務でもある「防犯設備・機器の設置、普及促進及び維持管理」に変更し、これを明確にするために協会名称も「山口県防犯設備士協会(以降「山防設」)と改名・会則も変更し、平成18年再度結成をいたしました。(私もこの時に入会し事務局をお引受けし現在に至っております。)

まず県内資格者の増加と、協会会員の増員にと、「日防設」にお願ひし、平成22年2月山口県に於いて初となる防犯設備士認定試験を実施していただき、県内資格者を現在170名、総合防犯設備士3名にまで増加する事が出来ました。当協会も現在会員数50名(正会員36名・準会員4名・賛助会員10社)となり、再編当初の目的でもあった県内各所に「防犯設備士を配置する」など、まずは達成出来たかなと思っています。その事により、去年は地域各所で

防犯講習の機会をいただき、13回の講習会を実施させていただきました。

もう一つの目標課題として、継続的な事業の創生とそれに伴う会員活動の活性化です。

防犯優良マンション認定についても、隣の広島県では二百数十件もの認定登録数を有するのに山口県ではまだ一件も有りません。その大きな要因として、一つはマンション施主・施工者のほとんどが県外だと言うこと、二つにローコストマンションが多いこと、そして何より協会としてのPR不足と言うことだと思います。マンションの建設増加も近年のこと、防犯性能で選ばれるとこまでは行っていないですが、今後大きな選定の基準に成ることは間違いなく予想されます。そんな中、低層階の集合住宅(アパート)を見ると建築年数の経過、または集合住宅の構造上、防犯性には脆弱で入居者の安全・安心環境の改善を早急に進めなければいけないと思います。

防犯優良集合住宅 推奨制度が始まります

山口県防犯設備士協会が推奨する「防犯優良集合住宅推奨制度」とは、防犯性能に優れた集合住宅の評価・推奨を行う基準です。安全で安心なまちづくりをめざし、防犯性能に優れた集合住宅の普及を図ることを目的としています。

犯罪防止4原則!

侵入盗にあきめさせる
守っている住まいについては、侵入盗は侵入しにくいと判断しあきらめます。

光 Light
目 Eye
音 Sound
時間 Time

山口県防犯設備士協会 TEL 083-924-8777 FAX 083-924-8858

山防設では、全国に先駆け「防犯優良集合住宅推奨制度」を検討し協会独自の基準を制定し、早期に立上げをと進めています。推奨制度の対象として県内に所在する集合住宅の所有者または管理会社で、まず所有の集合住宅の防犯診断を行い現状について報告、優良集合住宅推奨登録に必要な事項の改善について説明し一件でも多く推奨登録の件数を増やしていかなければなりません。

またその事により、防犯優良マンション普及へのきっかけと成るよう、また地域での防犯講習会を通して、県民の防犯意識の向上に協会を上げて積極的に取り組んで行きたいと思っています。「日防設」より、再度山口県で防犯設備士認定試験会場にお話を頂きました、私共にとっても2回目となり前回の経験を活かして広く声掛けをし、受験者を増やそうと思っています。その事によって防犯設備士の資格が広く認知され県内での「安全・安心の環」が築かれるのではないのでしょうか。

明治維新の精神的指導者・理論者として知られる。吉田松陰先生の遺した言葉に、草莽崛起（そうもう くつき）があります、「草莽」とはつまり一般大衆を示し、「崛起」とは立ち上がること、声を挙げることであり、つまり「志しあるものが集い、声を挙げてことを成す」その精神をもって、協会会員が一丸となって進んでまいります。

山防設は2年後を目指して、一般社団法人として再編いたします、我々の取組む「防犯優良集合住宅」は今後、私ども協会にとって大きな事業の柱となり、山口県が目指す「住みよき日本一の元気県」へ向けて県警察本部、県防犯連合会、県地域安全安心推進室の皆様と連携協調し、またご指導を仰ぎながら進めて行かなければならないと思います。

最後になりましたが、昨年は東日本大震災という悲しいことがございました。多数の犠牲者を出し、大きな被害を及ぼしましたこの出来事が頭を離れることがありません。しかしながら、いつまでも俯いていたのでは被災地の復旧・復興が遅れてしまいます。年明けを契機とし、私どもは上を向いて元気に歩を進める必要があるように思います。

また、このことこそが犠牲になられた方々の霊を慰めることに繋がると考えます。



犯罪のないまちづくり県民大会 富田講師と共に